

飯伊地区 産業経済動向

No.507 2021/6
(3.7.25発行)



IIDA SHINKIN BANK
飯田信用金庫
しんきん南信州地域研究所

http://www.iidashinkin.co.jp
〒395-0044 飯田市本町1-2
TEL 0265-53-5811 FAX 0265-53-1132

飯伊地区主要経済指標

主要指標		実数	前月比	前年同月比
手形交換高 (飯田手形交換所扱)	枚数	2,513 枚	5.2 %	△ 16.8 %
	金額	4,200,108 千円	15.5 %	△ 13.3 %
うち不渡発生状況	枚数	0 枚	(前月 0 枚)	(前年同月 0 枚)
	金額	0 千円	(前月 0 千円)	(前年同月 0 千円)
倒産件数 (負債額1千万円以上)	県内	5 件	(前月 4 件)	(前年同月 10 件)
	飯伊	1 件	(前月 1 件)	(前年同月 1 件)
住宅着工戸数 (飯田市、下伊那郡 総数)(5月)		49 戸	6.5 %	14.0 %
有効求人倍率(パートを含む実数) (ハローワーク飯田管内)(5月)		1.18 倍	(前月 1.19 倍)	(前年同月 0.85 倍)
自動車新規登録台数 (松本事務所管内)	新車	1,929 台	22.0 %	△ 1.3 %
	中古車	780 台	20.4 %	1.8 %
軽自動車新規登録台数 (軽自動車協会連合会長野事務所) (5月)	新車	3,440 台	△ 5.4 %	80.9 %
	中古車	1,105 台	△ 43.7 %	1.7 %
中央道利用台数 (飯田インター分)	入	80,799 台	4.2 %	△ 5.3 %
	出	80,488 台	3.5 %	△ 6.5 %
中央道利用台数 (松川インター分)	入	51,184 台	7.7 %	△ 14.4 %
	出	50,260 台	8.9 %	△ 14.3 %
中央道利用台数 (園原インター分)	入	11,816 台	△ 16.8 %	△ 14.7 %
	出	11,932 台	△ 16.0 %	△ 14.9 %
中央道利用台数 (飯田山本インター分)	入	31,922 台	△ 6.4 %	4.2 %
	出	31,485 台	△ 6.3 %	2.2 %
中央道利用台数 (座光寺スマートインター分)	入	25,447 台	5.6 %	- %
	出	25,848 台	3.5 %	- %
信用保証協会 新規保証件数 (飯田支店管内)		102 件	21.4 %	△ 83.8 %
信用保証協会 代位弁済件数 (飯田支店管内)		0 件	(前月 0 件)	(前年同月 0 件)
高速バス乗車人数	飯田～新宿	5,256 人	3.4 %	5.7 %
	飯田～名古屋	4,617 人	△ 0.8 %	10.1 %
	飯田～長野	3,220 人	8.5 %	△ 7.1 %
	伊那・駒ヶ根～新宿	2,907 人	10.4 %	210.6 %
市内循環バス乗車人数	左回り	2,891 人	18.0 %	△ 7.6 %
	右回り	2,689 人	13.1 %	△ 0.6 %

◆ 本誌内容は飯田信用金庫ホームページ (http://www.iidashinkin.co.jp) に全文掲載しています ◆

本誌は、当金庫が信頼できると考えるデータに基づき作成されておりますが、データ、記述の正確性、完全性を保証するものではありません。御利用に当たってはご自身の判断によってください。

しんきんは環境にやさしい取り組みを地元のみならずともに行っています。



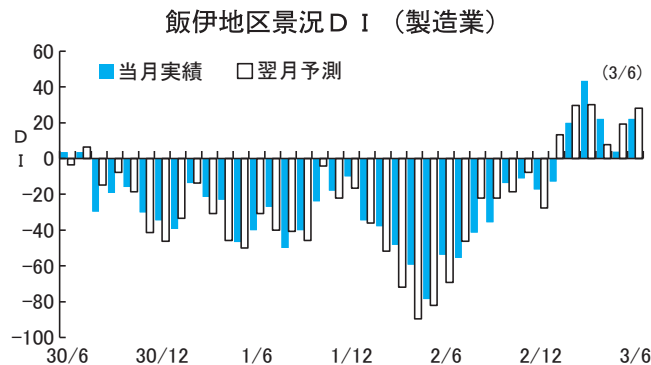
100%植物性油型インキ
[リチウム] [100] を使用しました。

再生紙を
使用しています

地区内製造業の景況判断指数

概況 景況DIは、不透明感を残しながらもプラス領域

当月の製造業の業況判断指数（DI）は、プラス22.2で、前月から18.4ポイント上昇。翌月予測はプラス28.0で、前月から8.8ポイント上昇。



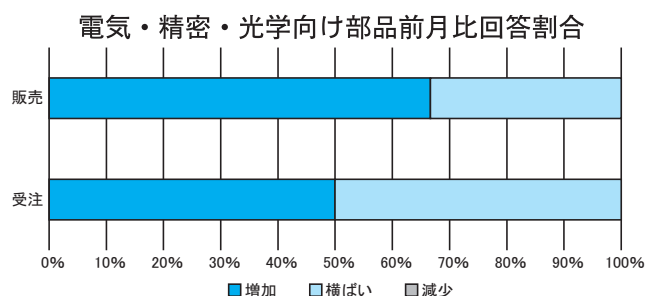
主な業種の動き

●電気・精密・光学

☑景況感……横ばい～やや好転。受注、販売高とも前月比増加の声が多い。先行きの見通しも良好との声が多い。

☑雇用……複数の業者から不足感を指摘する声。

☑原材料価格…依然、上昇基調。



[企業からのコメント]

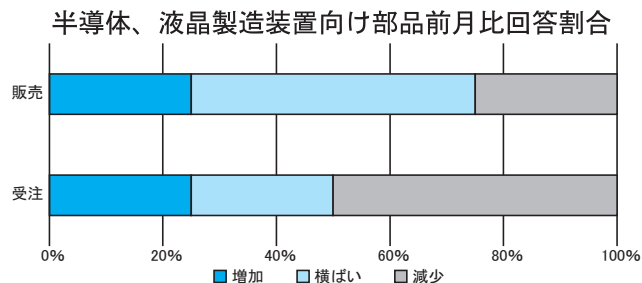
- ・新型コロナウイルスによる世界経済への影響が長期的に懸念されるが、景気は回復してきている。
- ・「半導体の入手不足が原因で生産体制に影響が出てきている客先が増えつつある」「半導体の調達が非常に困難」
- ・「人員に不足感。当面続きそう」「人員不足。派遣社員を検討中」

●半導体、液晶製造装置向け機械部品

☑景況感……横ばい～やや好転。好調が続いている様子。先行きもこうした状態が続きそうとの声が多い。

☑受注残高……総じて、前月比減少も、前年比増加。

☑原材料価格…依然、上昇基調。



[企業からのコメント]

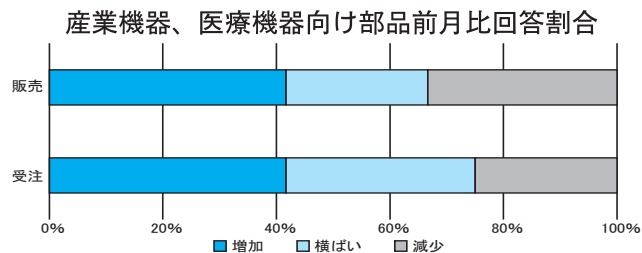
- ・今年前半の仕事の薄い時期から客先の情報により在庫を増やしていたが、払底しつつある。
- ・「先月に続き需要増加」「E P D 関連はますます」
- ・「当月の売上比に比べればやや減少するだろうが、引き続き高い水準を維持していく見込み」「年内好調の様子」

●産業機器、医療機器向け等機械部品

☑景況感……売上の前月比は業者により増減まちまちも、景況感が悪化したとの声は少ない。

☑原材料価格…依然、上昇傾向との声が多い。

☑雇用、投資…増員、投資の声は、多くはない。



[企業からのコメント]

- ・「基板不足で生産調整しているものがある」「購入品の入りが悪いものがあり、手が付けられないとの声も聞く」。
- ・「まだまだ増産となりそう」「数か月フル稼働分の受注残。拡大も上限」「短納期案件は多かった」
- ・「コロナ禍の影響は依然あると思うが、必要最低限は出回っている」「売上増加は前月稼働日が少なかったことの跳ね返り」「出図遅れもあり、当月仕事集中。売上も一時的に増加」「一部製品は、前月特需があったが、通常に戻った」
- ・「各種鋼材値上げ」「アルミインゴット上昇」「原油値上がりの影響は大きい」「アルミ、鉄、その他値上がり予定」

●半生菓子、菓子原料等

売 上……前月比概ね横ばい～やや増加。前年比は、昨年の反動で増加も、コロナ前に比べればまだまだ低いとの声も。

景 況 感……横ばい～好転。依然、コロナ禍の影響で先行きの不透明感は拭えないという。

原材料価格…上昇基調との声。

[企業からのコメント]

- ・前年比は2月から増加しているが、前々期と比較するとまだまだ低い水準。先行き何とも難しい。今月をしっかりと見たい。
- ・駄菓子が回復。スーパーなど販路によって良かったところもある一方、土産物は回復が遅い。前年の反動もあって売上の前年比は増加も、先行きはコロナワクチンの普及次第。
- ・砂糖、小麦、油、卵など値上がり中。

●水引製品

売 上…前月比、横ばい～増加。前年比は減少との声も。

景況感…大きな動きは見られない。

[企業からのコメント]

- ・祝儀用品は年々減少を続けていたが、コロナで披露宴なしが定番になってしまった。この趨勢は元には戻らないのでは。仏事は新規取引などもあり減少は抑えられているが、家族葬が増えており、対応した製品を模索中。いずれにしても人の交接が減ってしまっは大変なことになる。軽佻浮薄な行動はとれない。
- ・業況は先月とほぼ変わりはない。前期業績にはコロナの影響が如実に出ている。今期はさらに厳しくなりそう。
- ・当業界の「手作業」という特性に着目し、縁のなかった業界から仕事の問い合わせがあった。
- ・補助金等の支援を継続してほしい。

●漬物

売 上…前月比、前年比ともやや増加。

[企業からのコメント]

- ・前年よりも少し動いた感はあるが、一昨年には及ばない。
- ・調味料など、値上げ案件が多くなってきている。

●上記以外の製造業

建築用金属製品…販売は前月比概ね横ばいも、前年比減少。秋口までは厳しいながら、引き合いは徐々に増えているという。原材料単価は、以前上昇基調との声。

自動車向け部品…販売は前月比、前年比ともにやや減少も、景況感の悪化には至らないとの声。

印刷、出版関連…売上は前月比、前年比とも増加も、コロナ前には及ばないという。

衣 料 品……………販売は前月比やや減少、景況感も悪化との声。

[企業からのコメント]

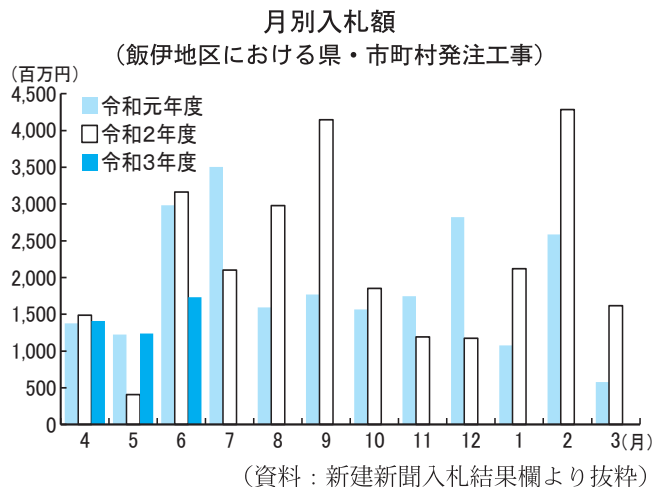
- ・全国的に建設関連はまだまだ厳しい。
- ・高校のイベント復活があり、印刷物にも良い影響があった。
- ・官公庁の見積競争が過激になり過ぎている感。当節誰もが仕事は欲しいが、適正価格にも配慮してほしい。
- ・コロナの影響で発注が全く途絶えている。コロナ終息後の需要増を見込んで仕入を増やすアパレル、現状維持のところ両極端で受注が安定しない。一刻も早い現状打破を願う工場ばかり。
- ・ベトナムのロックダウン、中国国内でも南では閉鎖している工場が多く、北では北朝鮮との問題など、衣料品の海外生産が難しくなっているとの声は多い。
- ・「一部職種で求人中」「人員に変更はない。様子見」「設備投資計画中」「投資は一旦止める」

建設業

官公需

概況 6月の公共工事入札金額は前月比増加。前年比は減少。

- ✓公共工事入札額…当地区における当月の県、市町村発入札額注工事の入札額合計は、約17.3億円。前月比40%増加、前年比では45%減少している。
(7月20日調査時点)
- ✓受注残高…前月比、先行きともに、事業者により増減分かれる。
- ✓原材料価格…引き続き、上昇傾向との声が多い。
- ✓雇用…技術者の不足を指摘する声は依然として多い。技術者不足によって工事受注できない傾向が強まるとの指摘も。



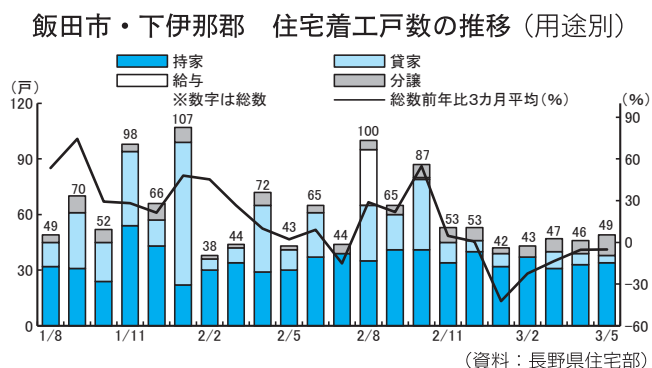
[企業からのコメント]

- ・「業界全体、まだまだ発注が少ない。7～8月に期待」「昨年度の未完成工事はほぼ完了し、新年度工事の発注待ち」
- ・受発注が進み通常工事の発注が増えているが、工事量の増加により不調・不落の物件も出始めている。
- ・国土強靱化、減災防災工事、昨年7月の台風豪雨災害工事、三遠南信工事、リニア関連工事土木工事は忙しい。今後、当初予算工事が発注になると、さらに忙しくなる。

民需

概況 令和3年5月の住宅着工戸数は49戸
民間投資は徐々に明るい兆しも、資材値上がりが懸念材料

- ✓住宅着工戸数…当地区の5月の住宅着工戸数は49戸。前月比7%、前年比14%増加。
- ✓受注残高…当月の受注残高の前月比は、やや減少～横ばい。新築住宅はまずまず、細かなリフォーム工事が中心との声強い。
- ✓原材料価格…引き続き木材の値上がりを指摘する声の他、燃料、鋼材等も値上がりとの声。次月以降も上昇傾向が続く見通しという。



[企業からのコメント]

- ・「工事は小規模リフォームのみ」「建築、設備工事は細かいリフォーム関係の工事が多く、例年に比べ忙しく人手不足」
- ・「時期は少し先だが、製造業の建設計画が少しずつ出始めた」「民間工事の冷え込みは続いているが、徐々に受注も」
- ・地域の小企業は職人は少ないし、企画力や価格も大手企業には太刀打ちできない。これと言った特徴が無ければ、これから先の時代を生き残れない。

建設資材等

概況 6月の生コン、骨材は前月比増加。前年比でも増加傾向が顕著

- ✓生コン…売上の前月比はやや増加～増加。前年比では大幅に増加となった。
- ✓骨材…売上の前月比はやや増加、前年比でも総じて増加傾向。

[企業からのコメント]

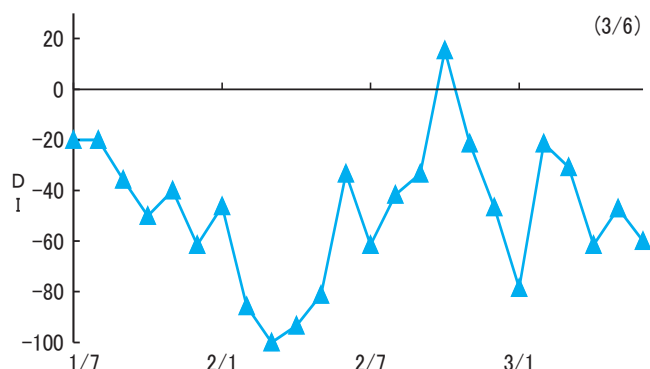
- ・当月の生コンの主な出荷は、三遠南信工事、リニア関連工事、発電所工事、護岸工事、治山工事に関わるものだった。リニア関連工事の出荷量は、当月出荷量全体の6%弱。
- ・6月は大口現場が重なり生コンの大幅な出荷量増となった。8月の盆過ぎ頃に生コンの出荷が増えるのではないかとの話も聞かれる。リニア工事がいつ始まるかわからないが、始まったら供給の問題があり心配。
- ・例年のこの時期のことを考えると、骨材の動きは良い。
- ・2023～2024年頃からリニア向け生コンの出荷ピークが予想される中、砂利業界の準備は遅れている。原石の確保、製品在庫の確保、運搬車両の増車等、課題が山積み。ダンプカーの確保などを見据え、ダンプカーの一日単価を6月より大幅に上げた。

概況 景況感は上昇もまだ低水準

当月の商業・サービス業の業況判断指数（D I）は、マイナス60.0で、前月から12.9ポイント低下。

前年同月はコロナ第1波が落ち着きを見せた時期で、各種給付金や宿泊割引キャンペーンなどにより景況感が改善していたが、緊急事態宣言の影響か、今年は景況感が低迷している。コロナが長期化する中で支援施策も手薄になっており、本格的な回復にはワクチン接種の進展に期待するしかない、との声が聞かれた。

商業・サービスD I



主な業種の動き

●小売業 概況 景況感はやや悪化～横ばい

☑売 上……前月比、前年比ともに業者により増減分かれる。

☑仕入単価…酒類、粉類の他、野菜類も高くなっているとの声が聞かれた。

[企業からのコメント]

- ・昨年6月はコロナの影響が一番酷い月であった。今年は少しずつではあるが持ち直しつつある。
- ・コロナ禍の中で6月は概ね昨年同様に推移した。3～5月は厳しかったが、今後は昨年並みに推移する見込み。
- ・飯田の飲食小売もイベント等の中止が多く、皿盛や酒の売上はほぼない状況とのこと。
- ・コロナも地元では出ておらず大きな変化はないが、仕入業者のメーカーが廃業したとの情報があった。

●卸売業 概況 景況感はやや悪化～横ばい、先行きは悪化との声が複数

☑売 上…前月比は業者により増減分かれるも、減少との声が多い。前年比でも減少との声が多く聞かれた。長引くコロナ禍の影響を指摘する声も複数。

[企業からのコメント]

- ・野菜の動きは近年になく悪い。日照時間が短いため大根、白菜、胡瓜、トマト、玉葱等、主力商品の入荷量が前年比6～8割も価格は上昇せず。野菜全体では入荷量が前年比19%減、価格は3%高に留まった。果実は梅が3年ぶりに平年作となったが、旬を迎えたサクランボは全国的に遅霜の影響を受け昨年同様に不作気味。果実全体では入荷量が前年比4%増、価格は13%安。野菜同様に動きの悪い月となった。昨年以上に、新型コロナの影響が出ていると思われる。
- ・地域により物件・設備投資等の受注差が大きく、下伊那は低迷している。上伊那から北にかけてはコロナ禍前までは回復していないにしても明るい兆しが見えつつある。
- ・夏の売上の少ない時期に入った。今後一層厳しさを増しそう。

●飲食・宿泊・運輸業 概況 景況感悪化との声が複数、先行き改善を見込む声も

☑売 上…宿泊業を中心に、前月比減少との声が多い。前年6月はコロナ第1波が落ち着いた時期であったため、飲食・宿泊業の中では前年比減少との声も聞かれた。

[企業からのコメント]

- ・昨年はこの時期からテイクアウトが良く売れ出した。今年は苦しい。ささえあい券も終了したこれからの勝負。
- ・緊急事態宣言で魚が動かない。このままでは漁師も魚屋も大変なことになる。
- ・「県民向けの宿泊割引キャンペーンが始まってはいるものの予約に至っていない。コロナに対する警戒感が根強い」「前期の修学旅行は全て後期へスライド。後期は修学旅行ラッシュとなる見込み」「コロナが一向に収まらず、緊急事態宣言が解除になってもまん延防止重点措置が出されている状況ではまだまだ観光客は戻らない」「感染防止用の設備や備品は補助金を利用して一通り揃えられたが、今年は昨年のような補助がないので厳しい。今までは昨年借り入れた資金で回してきたが、今後が不安」「県も旅館や飲食業、土産店の支援施策をいろいろやってくれているが、混乱したり迷ったりして非常に使いにくい」
- ・タクシー売上は週末の夜間は戻りつつあるが、平日に関してはまだ全く上向き感は見られない。この先ワクチン接種が進んで経済がどれだけコロナ前に戻るか、事業規模と市場規模のバランスを検討する必要がある。

リニア中央新幹線に関する追加アンケート

コロナ禍を経てもリニアへの思いは8割が「変わらず」

当金庫がリニア沿線地域信用金庫とともに実施したリニア沿線地域共同アンケートについては、長野県分の調査結果を本誌No.488（令和元年11月）からNo.491（令和2年2月）に亘って紹介した。

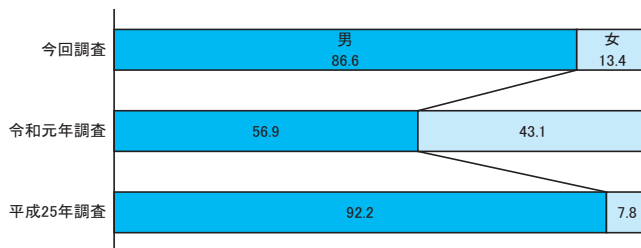
その後の新型コロナウイルス蔓延によって、私たちの「生活と仕事」は大きな変貌を余儀なくされた。その中で、地域のリニア中央新幹線に対する思いも変わっているのでは、と考えざるを得なかった。コロナ下における「リモートと分散」はリニア新幹線と相俟って新たな可能性が拓けると考えられるし、他方で新幹線による移動需要が減少し、新幹線にとっては厳しい環境となる、という考え方もあり得るだろう。そこで、地域の皆さまにアンケート調査によりご意見をお尋ねすることとした。

1. 緊急の特別調査を実施

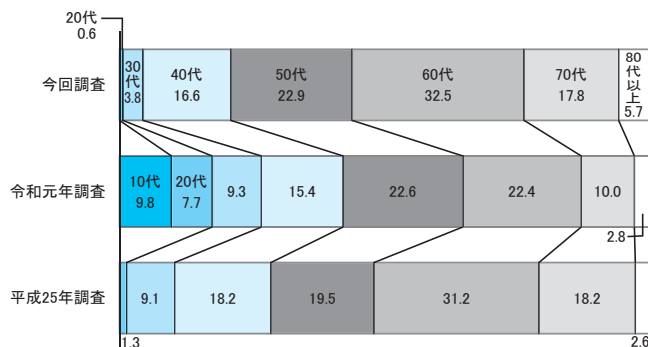
アンケートは本年3月、本誌の調査先と配布先（読者）の皆さまに調査票を送りご協力をお願いした。お忙しい中ご協力いただいた皆さまには厚く御礼申し上げます。回収総数は158件となった。

回答者の属性情報は右グラフの通り、過去の調査時の状況も併せてお示しする。これをみると今回調査は、本誌調査先・配布先を主な対象としたため、同様な方法で行った平成25年度調査の性別、年齢区分別の比率に似た構成となっている。一般の取引先にも広く回答をお願いした令和元年度調査の構成比は、これら調査とやや異なっており、今回調査は産業界、経済界の意向が元年度調査と比べてより反映されることとなり、回答に若干の変化が生じることに留意すべきと考えられる。

回答者性別



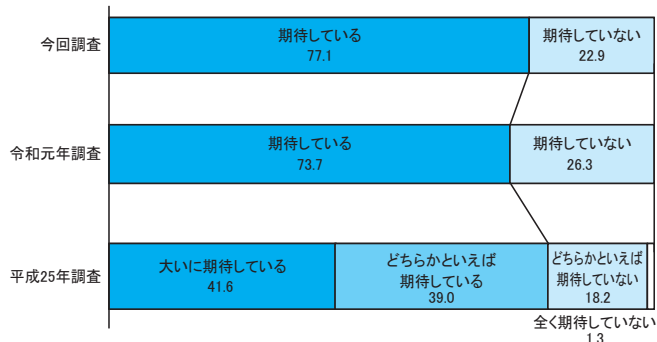
回答者年齢



2. 「リニアに期待」には大きな変化が見られず

平成25年度調査からお聞きしている「リニア中央新幹線に期待しますか」は、今回は令和元年調査時の「期待している」73.7%から77.1%とやや増加した形となった。ただ、前回調査とは、性別、年齢別等の構成比が変わっていることを考慮すると、増加したと考えるより、大きな環境変化の下でも「目立った減少は見られなかった」と考えるのが適切と考えられる。

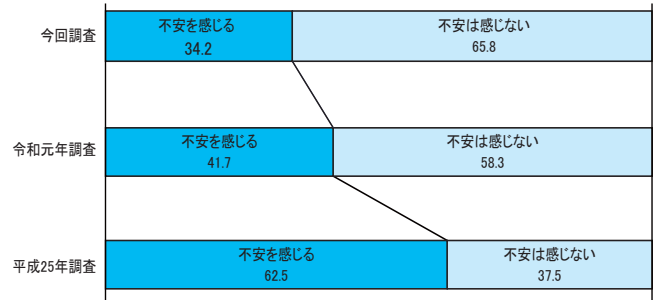
Q リニア中央新幹線に期待しますか



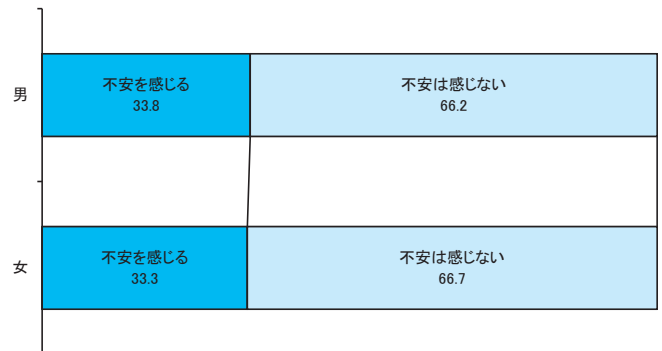
次に、「リニア中央新幹線に不安を感じますか」では、「不安を感じる」は34.2%と、これまで2回の調査と比べ減少している。これについては、リニアルートが決まったばかりの平成25年当時と比較すると、当地域の各地で工事が着手されて、工事に伴う不安などは完全には払拭できていないものの、個別に対応が進められている昨今の状況が反映したものとみられる。

もう一つは、「不安を感じますか」を男女別でみた場合、今回調査は「不安を感じる」に男女での差が殆どないことが挙げられる。一般に、このようなアンケートでは女性の方に「不安を感じる」が高く出る傾向がある。今回調査での回答者の女性比率は13.4%であるが、「産業経済動向調査」の調査先・送付先ということで、ここにも産業界・経済界の意識が投影されているのでは、と考えられるが、いずれにしる引き続き考察が必要と考える。

Q リニア中央新幹線に不安を感じますか



Q リニア中央新幹線に不安を感じますか（男女別）今回調査



3. コロナ禍を経てもリニア新幹線への思いは変わらず

コロナ禍を経て地域の皆さまのリニア新幹線への思いはどうなっているか、「コロナ禍によりリニア新幹線への思いは変わりましたか」の質問項目でお聞きした（右グラフ）。

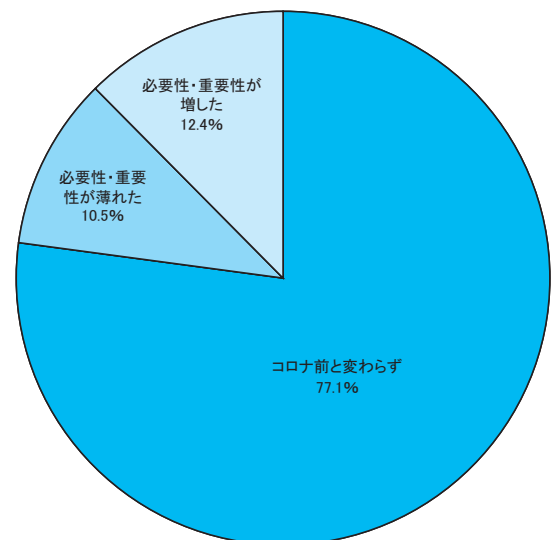
結果は、「コロナ前と変わらず」77.1%、「必要性・重要性が薄れた」10.5%、「必要性・重要性が増した」12.4%となった。3/4の方々が「変わらず」、残り1/4を「薄れた」、「増した」がほぼ半々で拮抗することとなった。

アンケート調査を行うにあたり、このコロナ禍により、新幹線の必要性・重要性は薄れることも増すことも想定できると考えた。「コロナ前と変わらず」はせいぜい半数程度で、残りを「薄れた」「増した」で分け合うことも想定したのであるが、当地域の皆さまのリニア新幹線に対する思い・期待は依然として力強いことが窺われた。

単純な三択の設問であり、それぞれの回答の思いの中身を更に深掘りしてお聞きすれば、より皆さまの思いの中身に触れることができたのではと考える。

今後機会を捉え、コロナの収束後の世界がどのように展開するか、社会や産業がどう変容していくかを見届け、その中でリニア中央新幹線がどのように位置づけられていくかを追いかけることとしたい。

Q コロナ禍によりリニア新幹線への思いは変わりましたか



（飯田信用金庫 しんきん南信州地域研究所 リニア・三遠南信対策室 加藤 修平）

飯田市美術博物館では、8月29日まで、特別陳列「東山道と伊那谷の古代仏教文化」が開催されています。今回は、同博物館の学芸員 織田顕行 氏に、「道がもたらした恩恵 ―東山道と伊那谷の古代文化―」をご執筆いただきました。

リニア中央新幹線、三遠南信自動車道の開通を控えた当地域で、古代東山道を介して広まった様々な文化的現象、とりわけ仏教文化の拡大をご紹介します。

より深くお知りになりたい方、ご興味のある方は、飯田市美術博物館の特別陳列もぜひご覧ください。

古代の道がもたらした恩恵 ―東山道と伊那谷の古代仏教文化―

飯田市美術博物館
学芸員 織田顕行

歴史を振り返ってみても明らかなように、新たな交通網の整備は人びとの生活環境を刺激し、変化をもたらしてきました。なかでも、ここに紹介する古代の道「東山道」の整備は、飯田下伊那の歴史上最初の大掛かりな交通網の変革でした。

本稿では、東山道を介して当地にひろまったさまざまな文化的現象、とりわけ仏教文化に焦点を当てたいと思います。東山道が育んだ文化というと、当地では古墳や馬の文化が思い起こされるのですが、仏教もまた大きなインパクトを与えるものでした。



古代の道 東山道

古墳から寺院へ

古代の飯田下伊那は、畿内や東海地方からみれば信濃国の玄関口であり、東国諸国への入り口でもありました。交通の要となった5世紀後半～6世紀末には、県内有数の前方後円墳の密集地になりました。これらの古墳では、被葬者の副葬品として馬具が多数見つかるのが大きな特徴です。馬の飼育や輸送に携わる豪族がいたと考えられます。東国への入り口にあって、交通や軍事に必要な馬の集積地として地形的にも適していた伊那谷は、ヤマト王権と深い関わりを持つことになりました。

奈良時代に律令体制が整えられ、東山道が改めて整備されるのですが、それに付随して周辺の交通網も充実していったことでしょう。そしてそれまで以上にさまざまな人・モノ・情報が行き交うようになり、従来の古墳に代わる新たな祭祀や供養の場として「お寺」に注目が集まるようになります。当時の人びとの意識は「古墳から寺院へ」と移り、集落の景観も変わっていきました。東山道を通じて当地にもたらされた仏教は、当時最先端の外来文化でもあり、人びとの宗教観を大きく変えるものでした。

しかし、奈良時代までの当地における仏教を支えてきたのは一部の有力者で、一族の移住や衰退で盛衰が左右される程度であったと思われます。本格的な仏教定着までにはもう少し後の時代まで待たなければなりません。

律令国家づくりの推進と、東山道の仏教文化

朝廷は、645年の「大化の改新」ののち、「律」と「令」という法にもとづく唐の制度を導入、701年には大宝律令を制定し、中央集権国家の建設をめざします。その一環として国土を五畿七道の行政区に大きく分け、その下に国・郡・里の役所をそれぞれ設けました。そして中央と地方との連絡を緊密にすべく、東山道はじめ七つの官道を整備しました。律令国家下の東山道本線は、中央と地方とを最短距離で結び、素早く連絡を行うための政治的意味合いの強い道でしたから、地元への恩恵は限定的だったと考えられます。移入される仏教の影響も限定的だったでしょう。

したがって、当地に仏教が本格的に定着し後世まで存続するようになるのは、中央政府の地方に対する影響力が薄れ、東山道が政治的な交通・通信の道から「交易の道」へと移り変わってゆく10世紀以降と考えられそうです。

平安時代は、律令国家体制が崩壊し、天台宗や真言宗といった新たな勢力が台頭した時代です。従来の鎮護国家を軸とする南都仏教は主流から外れ、教団を支える人びとや寺院の立地場所などもそれまでと大きく異なっていきます。当地では天台教団の台頭が顕著でした。



東山道最難関 神坂峠

東山道最難関の峠「神坂峠」と伝教大師最澄

岐阜県と長野県境に位置する「神坂峠」は、美濃国から信濃国に至る東山道最難関の峠として知られ、古典文学にも登場します。

弘仁6年(815 ※817年か)、天台宗を日本に伝えた高僧・伝教大師最澄(767-822)は、上野・下野(群馬県、栃木県)に赴くため、この神坂峠を越えて下伊那を通りました。最澄はこの難所を行き交う旅人たちの憂いを、神坂峠を挟んだ東西に宿泊施設を設け、広拯院と広濟院と名付けました。最澄の生前に当地に建立された寺院はこの2ヶ所だけですが、その後も最澄を崇め慕う人々が集い、東山道沿いの寺社を整備し、当地に一大勢力を築いていきました。そのため、東山道沿いに建つ寺社の多くは、お寺だけでなく神社も含めて天台宗の影響下にありました。

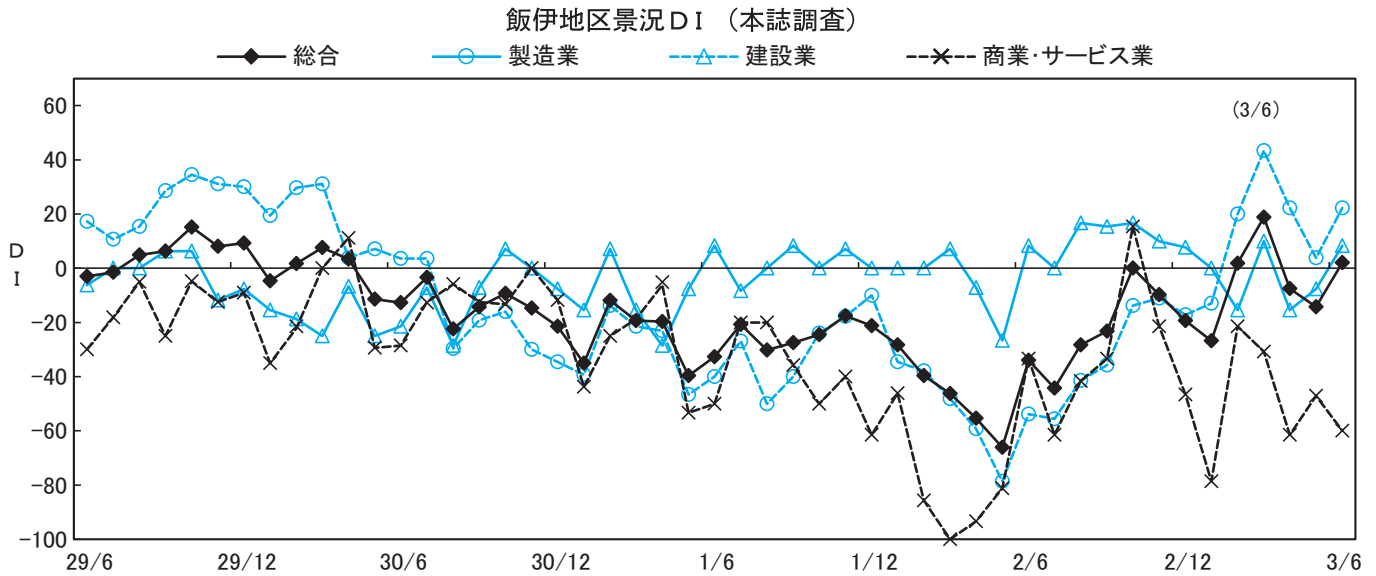
東山道を通じてもたらされた仏教は、はじめは一部の階層の人びとの間で受容されましたが、間もなく衰退してしまいました。その後新たな宗教勢力が台頭し、当地に仏教が土着するに至りました。その過程は決して単調ではありませんでした。

平成以後の飯田下伊那において、新たな交通網の整備といえば、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道などが話題にのぼってきます。これから先、こうした交通網の大変革がこの地域にどんな変化をもたらすのか、大いに気になるところですが、よりよい未来を築いていくために、過去の歴史から謙虚に学ぶ姿勢も大切にしていきたいものです。



伝教大師 最澄
(下伊那郡高森町・瑠璃寺蔵)

飯伊地区全産業景況DIの推移



統計調査から

【近時の有効求人倍率の推移】

ハローワーク飯田管内の、令和3年5月の月間有効求人倍率は1.18倍。昨年5月に急低下した有効求人数だが、コロナ直前の水準までには回復している。

月間有効求人数は、新規求人数と前月から繰り越された有効求人数から成る。変動の大きい当地区の製造業の新規求人数を見ると、やはりコロナ直前の水準までには回復している。

